

## 5種混合予防接種（ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ・ヒブ）の説明

接種対象年齢	生後2か月から7歳6か月に至るまで
望ましい接種年齢	1期初回接種を生後2か月～7か月の間に3回
ワクチンの種類	不活化ワクチン（不活化混合ワクチン）
予防する病気	<p>&lt;ジフテリア&gt;</p> <p>ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。現在では患者発生数は年間0～1人程度です。しかし、ジフテリアは感染しても10%程度の人に症状が出るだけで、残りの人は症状がない保菌者となり、その人を通じて感染することもあります。</p> <p>感染は主にのどですが鼻にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐等で、偽膜と呼ばれる膜ができ窒息死することもあります。発病2～3週間後には、菌が出す毒素により心筋障害や神経麻痺を起こすことがあるため注意が必要です。</p> <p>&lt;百日せき&gt;</p> <p>百日せき菌の飛沫感染で起こります。最近長びくせきを特徴とする思春期、成人の百日せきがみられ、乳幼児への感染源となり重症化する例がありますので注意しましょう。百日せきは、普通のかぜのような症状ではじまります。続いてせきがひどくなり、顔を真っ赤にして連続的にせき込むようになります。せきのあと急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出ます。熱は通常でません。乳幼児はせきで呼吸ができず、くちびるが青くなったり（チアノーゼ）けいれんが起きることがあります。肺炎や脳症などの重い合併症を起こします。乳児では命を落とすこともあります。</p> <p>&lt;破傷風&gt;</p> <p>破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が、傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、筋肉のけいれんを起こします。最初は口が開かなくなるなどの症状が気付かれ、やがて全身のけいれんを起こすようになり、治療が遅れると死に至ることもある病気です。患者の半数は本人や周りの人では気が付かない程度の軽い刺し傷が原因です。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。また、お母さんが抵抗力（免疫）をもっていれば出産時に新生児が破傷風にかかるのを防ぐことができます。</p> <p>&lt;ポリオ&gt;</p> <p>ポリオ（急性灰白髄炎）は「小児まひ」と呼ばれ、わが国でも1960年代前半までは流行を繰り返していました。予防接種の効果によりわが国では、1980年を最後に野生株ポリオウイルスによる麻痺患者の発生はなくなりました。しかし、現在でも海外では発生が見られており、これらの地域で日本人がポリオに感染したり、日本にポリオウイルスが入ってくる可能性があります。</p> <p>ポリオウイルスに感染すると100人中5～10人は、かぜ様の症状があり、発熱を認め、頭痛、嘔吐があらわれます。また、感染した人の中で、約1,000～2,000人に1人の割合で手足の麻痺を起こします。一部の人には、その麻痺が永久に残ります。麻痺症状が進行し、呼吸困難により死亡することもあります。</p> <p>&lt;ヒブ&gt;</p> <p>体の中で最も大切な部分といえる脳や脊髄を包んでいる膜を髄膜といい、この髄膜に細菌やウイルスが感染して炎症が起こる病気が髄膜炎です。髄膜炎には、細菌が原因の「細菌性髄膜炎」と細菌以外（ウイルス）が原因の「無菌性髄膜炎」があります。細菌性髄膜炎の初期症状は、発熱や嘔吐、不機嫌、けいれんなどで、風邪などの他の症状と似ているため、早期に診断することはとても難しい病気です。乳幼児の細菌性髄膜炎を起こす細菌はいくつかありますが、半分以上を占めているのが「インフルエンザ菌b型」という細菌で略して「ヒブ」と呼ばれています。冬に流行するインフルエンザとは異なり、ヒブは乳幼児に感染しても抗体（免疫）ができず、繰り返し感染することがあります。ヒブによる細菌性髄膜炎は5歳未満の乳幼児がかかりやすく、特に生後3か月から2歳に至るまではかかりやすいので注意が必要です。</p> <p>この髄膜炎以外にも敗血症、肺炎などの重篤な感染症や中耳炎・副鼻腔炎・気管支炎などの気道感染症を引き起こします。</p>

接種回数	<p>●標準的な接種</p> <p>1 期初回接種：20 日から 56 日までの間隔をおいて 3 回</p> <p>1 期追加接種：初回接種終了後 6 か月から 1 年半の間隔をおいて 1 回</p>
実施時期	年間通じて実施
実施場所	個別予防接種実施医療機関
副反応	<p>注射部位の発赤・腫脹（はれ）、硬結（しこり）などの局所反応や発熱などの副反応がみられ、ほとんどが接種 3 日後までにみられています。</p> <p>接種部位の発赤や腫脹（はれ）は 3～4 日で消失しますが、熱感や発赤の強いときには患部の冷湿布を行います。また硬結（しこり）は次第に小さくなるが 1 か月後でも残る場合がありますが放置してかまいません。</p>

## 予防接種を受けに行く前に

### 予防接種に行く前のチェック

- お子さんの体調はよいですか。
- 今日受ける予防接種について、必要性、効果及び副反応など理解していますか。  
わからないことがあれば、質問をメモにしておきましょう。
- 母子健康手帳は持ちましたか。
- 予診票の記入はすみしましたか。

## 1. 接種を受ける前に

予防接種は体調のよい時に受けるのが原則です。日頃から保護者の方はお子さんの体質、体調など健康状態によく気を配って下さい。そして気にかかることがあれば、あらかじめかかりつけ医や佐賀市健康づくり課にご相談下さい。

安全に予防接種を受けられるよう、保護者の方は、以下のことに注意の上、当日に予防接種を受けるかどうか判断して下さい。

- (1) 当日は、朝からお子さんの状態をよく観察し、ふだんと変わったところのないことを確認するようにしましょう。  
予防接種を受ける予定であっても、体調が悪いと思ったら、かかりつけ医に相談の上、接種をすることが判断するようにしましょう。
- (2) 受ける予定の予防接種について、必要性や副反応についてよく理解しましょう。わからないことは、接種を受ける前に接種医に質問しましょう。
- (3) 母子健康手帳は必ず持っていきましょう。
- (4) 予診票は、接種する医師への大切な情報です。責任をもって記入するようにしましょう。
- (5) 予防接種を受けるお子さんの日頃の健康状態をよく知っている保護者の方が連れて行きましょう。

## 2. 接種を受けた後

- (1) 予防接種を受けた後 30 分間程度は、医療機関（施設）でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- (2) 接種後、生ワクチンでは 4 週間、不活化ワクチンでは 1 週間は副反応の出現に注意しましょう。
- (3) 接種部位を清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- (4) 当日ははげしい運動は避けましょう。
- (5) 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう

【問合せ先】佐賀市 健康づくり課 予防接種係 0952-40-7279